

第1回市民活動ワークショップ 実施報告

開催日時	平成21年10月29日(木) 18:30~21:00
開催場所	武蔵野スイングビル 10階 スカイルーム1, 2
参加者構成	市民:38名(公募) アドバイザー:高山和久(東京ボランティア・市民活動センター統括主任) 事務局:7名(武蔵野プレイス開設準備室)
次第	開会 1. 武蔵野プレイス開設準備室長挨拶 2. アドバイザー挨拶 3. 「市民活動フロア 市民ワークショップ」の目的について 4. 「市民ワークショップ」全体日程について 5. ワークショップの概念および注意点について 6. 武蔵野プレイス概要について 7. 市民活動フロア 概要について 8. 市民活動関連施設への視察に関するご案内 9. 導入アクティビティ 10. 今後の日程について 閉会
配布資料	資料1 次第 資料2 パワーポイント資料 資料3 「ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス管理運営指針」 資料4 第2回ワークショップ、及び関連施設見学の予定について 資料5 第2回ワークショップ、及び関連施設見学の出席調整表 資料6 都内近郊の市民活動支援施設リスト
報告資料	資料7 導入アクティビティ報告

概要

次第1:武蔵野プレイス開設準備室長挨拶

〔内 容〕:武蔵野プレイス開設準備室長(前田洋一)挨拶

次第2:アドバイザー挨拶

〔内 容〕:東京ボランティア・市民活動センター統括主任(高山和久)挨拶

次第3:「市民活動フロア 市民ワークショップ」の目的について

〔内 容〕:事務局説明

〔配布資料〕:資料2「本日の目的」～「市民ワークショップで話し合う主なトピックス」

〔説明要旨〕:

- ・武蔵野プレイス3階に設置予定の市民活動フロアは、NPOをはじめとする市民活動団体の支援および、活動に参加したい方への情報提供や、団体運営・活動上の悩みなどの相談対応を行うことを目的としたフロア。
- ・このフロアに必要な機能やサービス、実施すべき事業等について検討することがこのワークショップの目的。
- ・平成22年10月まで、継続的に開催し、最終的には報告書にまとめる。
- ・市民活動フロアの運営は、NPO等への委託を想定しており、受託団体の決定後は、受託団体を中心に、ワークショップとは違った形で、より具体的な検討をしていくことが考えられる。
- ・武蔵野プレイス全体や、他の機能(図書館、青少年活動支援、生涯学習支援)については、直接には扱わないが、市民活動機能から見た、他の機能との連携という観点から触れることは歓迎。

次第4:「市民活動ワークショップ」全体日程について

〔内 容〕:事務局説明

〔配布資料〕:資料2の「市民ワークショップのスケジュール①」～「市民ワークショップのスケジュール③」

〔説明要旨〕

- ・資料によりスケジュールを説明。
- ・平成22年10月頃まで、10回程度の開催を予定。
- ・第1回は武蔵野プレイスについて、参加者の間の共通認識をつくるため、プレイスの概要説明などを行う。
- ・第2回で「市民活動に必要な機能」についての課題や問題意識の洗い出しをする。そこで出た課題や問題を、ワークショップの全員で討議すべき課題と、小グループで討議すべき課題に仕分けをした上で、第3回以降は全体会と分散会を平行して進め、5月頃に一度議論を集約する。
- ・それ以降10月までは、また別の議題について話し合い、最終的な報告書をまとめていく。
- ・事務局説明の日程は案であり、ワークショップを進めていく中で、各回の議題の検討や、日程変更もありうる。
- ・市民活動支援の現場のイメージを共有するため、途中3回程度、希望者による他市の施設見学を予定。

次第5:ワークショップの概念および注意点

〔内 容〕:高山和久(東京ボランティア・市民活動センター統括主任)氏からの説明

〔配布資料〕:資料2の「ワークショップ運営にあたってのお願い」

〔説明要旨〕

・「他の人の意見に耳を傾ける」こと、「話し合いに積極的に参加」すること、「多様なワークショップへの関わり方を認め合いながら、有意義な集まりに」すること、「創造的な話し合いを目指したい」といった、ワークショップを行うにあたっての注意点、基本的な姿勢について説明。

次第6:武蔵野プレイス概要について

〔内 容〕:事務局説明

〔配布資料〕:資料3「ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス管理運営指針」

上記資料は、武蔵野市ホームページからPDF形式でダウンロード可。

<http://www.city.musashino.lg.jp/cms/sisaku/00/01/11/00011153.html>

〔説明要旨〕:資料を用いて、施設全体の概要を説明。

次第7:市民活動フロア 概要について

〔内 容〕:事務局説明

〔配布資料〕:資料2の「3F平面図」～「市民活動支援機能の基本方針⑥」

〔説明要旨〕:

・市民活動フロアに、現在想定している施設・設備は、「市民活動に関する相談のためのカウンター」、「無料で気軽に打ち合わせが出来るワークラウンジ」、「関連書籍・チラシ・パンフレット・会報誌などを揃えた資料コーナー」、「パンフレットや資料の印刷が可能なプリント工房」など。

・市民活動フロアで実施する事業としては、団体相互のネットワーキングや、NPO マネジメント講座などの開催を想定。

・市民活動支援機能の運営は、武蔵野市内の NPO・市民活動団体の多数をまとめている組織(中間支援組織)へ業務委託することを前提に検討中。また、幅広い構成メンバーによって構成される運営協議会(仮称)を設け、管理運営についての利用者の参画を図る。

次第8:市民活動関連施設への視察に関するご案内

〔内 容〕:事務局説明

〔配布資料〕:資料4、資料5、資料6

〔説明要旨〕:資料を用いて、視察予定の「市民活動センターたちかわ」と「さいたま市市民活動サポートセンター」の概要を説明。

次第9:導入アクティビティ

〔内 容〕:小グループに分かれて、「ワークショップに参加した動機」や「市民活動の魅力」について意見交換。

〔配布資料〕:資料2の「導入アクティビティ」

〔報告資料〕:資料7

〔概 要〕:

・4～6 人の小グループに分かれ、各人が白紙に以下の4つのことを記入したうえで自由な話し合いを行った。①氏名

②所属(団体名、もしくは取り組んでいる活動など) ③市民活動フロアワークショップに参加をした動機(ワークショップに期待するものは) ④市民活動の魅力とは(なぜ、市民活動をはじめたのか)

・ワークショップ参加の動機については「フロアや印刷室などの場づくりに参加したい」といったものから、「市民活動の醍醐味を多くの方に知ってもらいたい」という、市民活動の拠点としてのあり方を考えていきたい、といった想いが多く出され、また、市民活動の魅力については「人との出会い」、「いろいろな形で関わること」、「地域との関わりをもちたい」、「たまたまやっていたことが市民活動だった」など、1人1人の活動の「原点」が伺えた。

次第 10: 今後の日程について

〔内 容〕:事務局説明

〔配布資料〕:資料2の「今後のスケジュール①」～「今後(平成22年1月以降)のスケジュール」

〔説明要旨〕:今後の日程を確認。ただし、ワークショップの進行状況や話し合いに応じて、日程・会場等を変更する可能性もある。

質疑応答

Q1: 市民活動以外の3機能(図書館、生涯学習、青少年)について、市民参加で検討する場を設ける予定はあるのでしょうか？

A1: 図書館および生涯学習の機能については、それぞれ図書館基本計画と生涯学習計画を各主管課で策定作業中であり、武蔵野プレイスの関連機能についても、これらの計画との整合性を持たせる必要があるため、両計画の策定を待ってから、検討の方法を考えていきます。

青少年活動支援機能については、ワークショップをやるならば、中高生が参加する形が望ましいですが、例えば今の中高生が、開館時には中高生でなくなっている可能性があるなど、大人のワークショップとは違った問題があるため、もう少し時期を見ての開催を考えています。

Q2: ワークショップへの参加について、定員が決まっていることに違和感があります。希望する人全員が参加できるような工夫は出来ないのでしょうか？

A2: 会場の容量の関係で定員を設定しました。可能な範囲で最大の会場を確保するように心がけていますが、どうしても容量の都合上、定員が発生してしまうのは致し方ないということをご理解いただければと思います。

※第1回ワークショップ終了後、この件について事務局内で再検討をし、定員を設けないことに致しました。

Q3: なぜ、武蔵野プレイス全体の議論からではなく、市民活動フロアに限定した議論から始めるのでしょうか？このワークショップでは、他の3機能については扱わないのでしょうか？

Q4: 市民活動を切り口に話を進めていくことには異論はないのですが、「複合機能施設」であるプレイスを検討するにあたり、図書館をはじめとする他の機能との関係を検討しなければ、縦割りの施設になってしまうことを懸念しています。

A3、A4: 4つの機能が互いに連携していくには、プレイス全体に関する検討を広く浅くするよりも、まず各々の機能の検討を十分に重ねた上で、それらの連携のあり方を考えていくという形が望ましいと考えています。

この市民活動ワークショップで主に検討するのは、武蔵野プレイス3階の市民活動フロアですが、複合機能施設である武蔵野プレイスの検討をする上で、当然図書館機能など、他の機能に言及することは考えられます。市民活動の観点からみた、図書館・生涯学習・青少年機能との連携について考え、武蔵野プレイスの特性を生かした市民活動フロアの運営方法を考えていければと思います。

Q5: 市民活動ワークショップの運営の仕方についての検討も、市民参加で進めていくことを検討していただければと思っています。

A5: 事務局と一緒にワークショップを運営していく、準備会のようなものができたら良いと考えています。次回のワークショップ以降、参加者を募集したいと考えています。

Q6: 建物の工事が進んでいますが、例えば(市民活動団体の備品や郵便物を保管できる)ロッカー・メールボックスについて、もしもワークショップでの討議の結果「いらない」ということになった場合、対応は可能なのでしょうか？

A6: ロッカーやメールボックスの計画については、他の市民活動施設を見学する中で、設置を想定したのですが、そ

それぞれの地域においても、ロッカーもメールボックスも足りないほど利用されているところもあれば、どちらかがほとんど利用されていないようなところもあります。そうした情報を踏まえて、武蔵野の場合はどうするのか？ということについて、皆さんがどのような活動をして、どういうことに使いたいのか？ということワークショップの場に出していただき、それを形にしていきたいと考えています。

Q7: 青少年活動支援機能について「あまり早くから青少年によるワークショップなどを行っても、プレイス開館時には参加した彼らが青少年でなくなっている可能性がある」といわれましたが、青少年は先輩後輩の結びつきが強く、先輩から後輩へ引き継ぎも行われると思うので問題はないと思います。十分開催意義はあると思うので、すぐにでも開催することを考えたらどうでしょうか？

A7: 他市の青少年活動支援施設の例ですが、開館前に青少年を募っていろいろと検討を行ったものの、その青少年達は、開館後の利用者にはならず、結局、検討されたことは、実際に利用者する青少年達のニーズと乖離していたという話もあります。そのようなこともありますので、もしワークショップなどを開催するにしても、適切な時期を検討することが大切だと考えています。